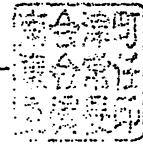


文教厚生委員長 高野 精一



所管事務調査について、調査した結果とその内容を下記のとおり報告いたします。

1. 調査日 平成24年6月6日（水）午前9時00分から午後3時25分

2. 目的

- （1）南郷保育所統合後の運営状況
- （2）南郷小学校統合後の運営状況
- （3）県立南会津病院診療体制の現況と今後の見通し

3. 調査日程

- （1）南郷保育所 10:00～10:45
- （2）南郷小学校 11:00～11:45
- （3）県立南会津病院 14:00～15:00

4. 参加者 委員

高野精一・湯田良一・湯田秀春・星登志一・大竹幸一・菅家幸弘
事務局（湯田昌伸）

(1) 南郷保育所統合後の運営状況

南郷保育所は、昭和 47 年度に設立された山口保育所と昭和 51 年度に設立された富田保育所が本年 4 月に統合し新たに誕生した児童福祉施設である。現在、入所児童数は 58 人（1 歳児～5 歳児）で、施設職員は 16 人（正職員 6 人・臨時職員 10 人）である。今後、入所児童数が若干増加する見込みだが、保育所の統合によって職員が減少したことや所長が伊南保育所と兼務となったことから保育のなか

で大変な一面も見受けられる。

施設面では、建物自体が南郷保健福祉センターを用途変更し保育所に改修したため、大ホールが吹き抜けで入所児童の声が反響し話が聞き取りにくい状況であるが、広々として入所児童に十分配慮された施設と感じられた。維持管理費を節減するため、夜間電力で床暖房を利用し、日中は余熱で温度を保つ取り組みがなされていた。

(2) 南郷小学校統合後の運営状況

「ふるさと南郷の学校を創る！」を大構想として、保護者・地域・関係機関と連携・協力し、統合の弊害を乗り越えスムーズな運営に向けて努力している。現在の全校児童数は106人だが、児童数の多い6年生が卒業すると100人を切る見込みである。

教育目標を「ひびき合い、ともに高まる南郷の子」に掲げ、進んで学ぶ子・心豊かな子・たくましい子の3つを柱に取り組んでいる。

<具体的な取り組み>

①進んで学ぶ子・・・期末テストを実施。通信簿を3段階の数字で評価。

②心豊かな子・・・あいさつを大きな声でする運動を実施。

③たくましい子・・・各種大会、記録会に向け継続的な運動の推進。

施設面では旧南郷第一小学校を校舎としているため、老朽化による改修が必要な部分があるが、耐震化・大規模改修工事が計画されているため、それに合わせて改修を進めたいとのこと。

(3) 県立南会津病院診療体制の現況と今後の見通し

診療体制は常勤医師12名、非常勤医師16名で、内科、外科、整形外科、小児科、耳鼻咽喉科の5科は手術日を除いて毎日診療し、産婦人科、眼科、皮膚科、神経内科、神経精神科、泌尿器科の6科は週1～2日の診療となっている。平成23年度から人間ドックの受け入れも行っている。

経営面では平成20～22年の3年を見ると毎年4億～5億円の赤字となっていたが、透析機器の増設や人間ドックに進出するなど収益の確保と費用の削減に努め、平成23年度は赤字が3億円を切り、経営改善がされている。

病院の喫緊の課題として、南会津医療圏（郡内・昭和村）の人口が約3万人だったが、この7年間で少子高齢化の進展から約4千人の人口減少があり、今後もこの傾向が続くと予想されるため、医療と介護の相互協力支援体制の整備が必要との説明を受けた。

6. 所 見

(1) 南郷保育所

保育料の滞納がなく、健全な管理・運営がされていた。遊具についてプラスチック製のものが多いため、自然のぬくもりを感じられる木製の遊具も整備すべきである。同施設付近には特別養護老人ホーム「南郷ホーム」や老人福祉センター「みさわ荘」が隣接していることから世代間交流を期待したい。

(2) 南郷小学校

あいさつを大事に学校への愛着を持たせる教育方針のように感じられた。統合して間もないが大構想の達成に向け地域全体で取り組んでいくことが必要と考える。

(3) 県立南会津病院

国の医療費削減方針によって、治療方針が無くなった患者を退院させなければならないため、いかに自宅での介護に繋げていくかが大変重要な課題となっている。一人暮らしの老人の方で生活に支障をきたすため入院を希望されるケースが多く、退院時の説明に困惑している状況となっており、医療と介護の相互協力支援体制の整備を南会津郡全体で考えていく必要がある。

以上